

月刊 書字文化

～日本書字文化協会機関紙 No 24～

平成 26 年 11 月号 毎月 10 日発行

一般社団法人日本書字文化協会

代表理事・会長 大平恵理

〒164-0001 東京都中野区中野 2-13-26 第一岡ビル 3 階

電話 03-6304-8212 FAX 03-6304-8213

E メール info@syobunkyo.org

ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

目次

- 小学部会に幼稚園・保育所追加・・・全書研高知大会で規約改正
- 幼保園児用硬筆教材上下を刊行
- 第3回伝統文化大会開催 ※錬成会日程は6ページにあります。
- 漢詩「楓橋夜泊」臨書習作展開催へ
- コラム
「こころ」(大平恵理) 「きのう 今日 あす」(渡邊啓子・副会長)
「教学半」(池田圭子・教学参与) 「文鎮」(佐藤貴子・指導主任)
- ▲ 資料編 (ホームページのみにあります)
※第3回伝統文化大会の実施要項、規定課題一覧はホームページにあります。

第3回総合大会表彰式

文字を書く・・・強調

「文字を書くということは、言葉を覚えるということですね。言葉を覚えると自分の意見を言いますね。このたび17歳でノーベル平和賞を受賞したマラライさんは、言葉を覚えられえると困る人たちのために、15歳のときに銃撃されたのです」。

文化の日（11月3日）、東京都東日本橋の中央区立産業館で第3回全国書写書道総合大会（公益財団法人文字・活字文化推進機構共催、文部科学省、小・中・高校長会、全日本書写書道教育研究会後援）の表彰式が開かれました。あいさつで、小森茂・書文協中央審査委員会委員長（青山学院大学教授、元文部科学省教科調査官）は、大要このようなあいさつを述べ、書写書道の意味、文字を書くことの重要性を表現しました。今、世界的に注目を集めているパキスタンのハイテーン女性の名が式辞に登場したことで、女生徒の姿が多くを占める式場は、頭と首に2発もの弾丸を受けながら一命を取り止めた彼女の衝撃の事件に思いを馳せていました。



参加者集合写真

席書披露重視に

表彰式に先立って、会場では「席書」披露の会が催されました。賞状、賞品を手渡すことだけが表彰式ではない、という考えから、今回は表彰式参加の受賞者に呼びかけ、大々的に席書披露の会が開かれたもので、毛筆12人、硬筆18人ものが参加しました。

席書とは、会場に集まった仲間とともに、一定の時間内に、お手本を見ずに書作品を仕上げるもので、本番感覚の競い合いとして人気の高い競技です。鉛筆など筆記具の持ち方、姿勢の大事さ、正確に整えて書くことなど、学習指導要領が求めていることの大切さがナマの姿として目前に見えます。特に硬筆では席書経験のある生徒はほとんどなく、審査委員らも「子どもたちにも、文字を書く上でよい経験になったようです」と、話していました。

参加者たちは、自分の作品を他の人と交換し、書写書道を学ぶ仲間の輪を広げました。

文字を書く・・・文化の点からも技能の点からも、書字が持つこのことの意味を強く体現したいと、書文協は、第4回大会では席書を競技の段階から大幅に取り入れることを検討しています。

「友ありてこそ」…謝辞で中野めいさん

一人ひとりに賞状、賞品が手渡されたあと、高知県立安芸高校2年、中野めいさんが謝辞を述べました。1000字に及ぶ謝辞の中で、中野さんはこう述べました。

「書道は個人プレーですが、一緒に取り組む友達の存在は大きいと思います。その友達も低学年から書道を習っています。切磋琢磨し合える良きライバルであり普段いろいろなおしゃべりのできる仲良しです。私が今まで書道が続けてこられたのは、友達のおかげでもあります」。

高知からはるばる東京スカイツリー近くの会場までやってきた中野さんは、文部科学大臣賞に輝いた栄光の過程に、団体の岡田慶子先生の熱心な指導とともに、あの友人の笑顔があったことを訴え、満場の共感を得ました。

謝辞の後、本紙のインタビューに中野さんは「書道科のある大学に進みたいと思います」と抱負を語り、中野の書文協本部を訪ねることを約束しました。



席書風景



中野めいさんによる謝辞



「公募と席書では、どちらがいい作品が書けるか」という議論を仲間たちとしました。公募というのは、教場あるいは自宅などで存分に書いて郵送する方式。書文協の全国硬筆コンクールは公募だけです。席書は、決められた時間、場所と1、2枚の用紙だけ、手本は見ないという制限された状況で書きます。周囲は競争相手の姿がいっぱいです▲結論は「席書」でした。それが永年、書の学びに取り組んできた私たちの実感でもあります。中央審査委員の先生方にも同意見が多くありました。制限された状況、一回限りという緊張感、本番勝負感覚が作品にハリ、ツヤを与えるのでしょうか。作品の出来栄だけでなく、子どもが書くことの何であるかを席書でつかんで、ぐんと伸びる姿をときに見てきました▲書文協では、文化の日の11月3日に開催した第3回全国書写書道総合大会の表彰式で、上位入賞者による席書披露を大段的にやりました。毛筆12人だけでなく、硬筆で18人もの児童生徒が参加してくれました。嬉しいかぎりです。言ってみれば、手紙を書いたり、ノートを取るという日常生活での書が席書に近いと言えるのでしょうか。学習指導要領が強調する【書の実用化】を推し進めるにも席書は大事だと思います▲ただし、コンクールとなると困るのです。キャパシティの問題です。希望者全員参加の席書全国大会を開くには、各地区予選をこまめに開いて、二次三次と大会を積み上げなくては実現できないでしょう。大変な作業です。だからといって、最初に公募作品でふるうという方法は取りたくありません。参加できる子、できない子を作る予選方式は、仕方ないにしてもコンクールありき、のやり方で勝利至上主義に陥りやすい、と思うのです。用紙も低学年は半紙でオーケーなど、できるだけ参加しやすくしたいと思います▲そんなことを考えながら、席書披露会場をみつめていました。キラキラと上気した子どもらの美しい顔にみとれつつ。

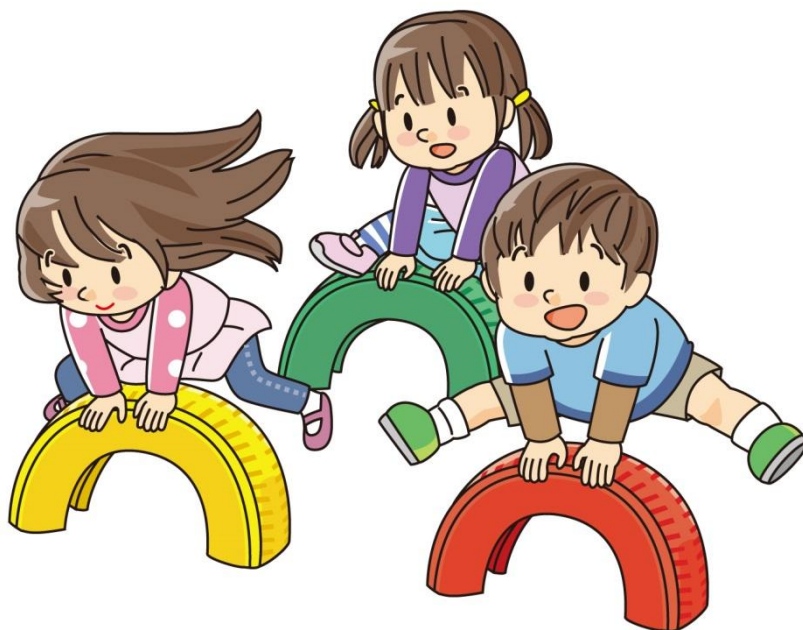
園児の文字教育にも取り組み開始・全書研 小学部会に幼稚園・保育所追加

全日本書写書道教育研究会（井上輝夫会長）は10月30、31日の2日間、高知市で年次大会を開き、書字教育発展のための研究事例発表を行うと同時に、部会構成の規約を改正しました。学校教師による教科研究全国団体としてこれまで小学校から大学までの教育についての研究を専らとしていましたが、幼稚園・保育所の園児の書写書道（文字教育）を団体の対象に加えたものです。部会名としては「幼保・小学校部会」となりそうです。

幼児に対する学習指導要領である「幼稚園教育要領」（平成20年3月、文科省）では、園児の文字に対する興味関心を呼び起こすための環境作り、体験づくりを求めています。書写書道教育がこの要請にどう応えていくかが問われるもので、保育所も一本化した認定子ども園などを含む幼児（園児）期の文字教育カリキュラムの上で極めて大きな動きと言えます。

27年次総会（東京）で、園児の文字指導の取り組み事例募集

平成27年度の全書研総会は、東京で開かれることが決まりました。板橋区の東京家政大学が会場となる予定とか。全書研では幼稚園・保育所園児の文字指導の取り組み事例を募っていくことになりました。単なる文字の早期教育ではない取り組み事例が期待されます。



きのう

今日

あす

書文協副会長 渡邊啓子

「春夏秋冬」

誰でもご存知の通り、日本には春夏秋冬の四季があり、四季折々の美しさがある。好きな季節は人それぞれ。

桜舞う麗かな春、太陽輝き煌めく夏、紅葉美しく心地よい秋、凜とした空気が張り詰め気持ちも引き締まる冬。

毎年必ず季節は巡る。だからだろうか「春夏秋冬」で「めぐり」と読む。初めてそれを知った時、「何てきれいな言葉なのだろう・・・」と思った。

「漢字は一文字ひとつにも意味がある」と、その漢字の意味を知るのも好きなのだが、状態を表現している読みがあるのを知った初めての言葉がこれだったと記憶している。

日本には、「ひらがな」があり、表現は無数になる。これは文字を通じて表現し伝える書写書道においても大切な要素。漢詩・漢文で伝わらないものも、読み下すことで伝わっていく。「文字を持たなかった文明は滅んでいる」と言われているが、伝統や文化を伝承・発展させていく上では欠かせない。

普段当たり前のように繰り返えされたり、使われていることの大切さを改めて感じる。

【第3回全国書写書道伝統文化大会錬成会日程】

地区名	会場名	日・曜日
宇都宮	宇都宮市中央生涯学習センター	11/16(日)
福岡	福岡市南市民センター	11/30(日)
名古屋	中村生涯学習センター	12/7(日)
大阪	ココプラザ(大阪市立青少年センター)	12/13(土)、14(日)
東京	なかのZERO	12/23(祝)

新・硬筆教材

幼児編（上）「はじめてのえんぴつれんしゅうちょう」

幼児編（下）「えんぴつひらがなれんしゅうちょう」

いずれも、新に始まる書写書道硬筆課題検定（新・硬筆検定）のテキストとして近く発売されるものです。幼児の硬筆指導・学習教材として最適です。

園・学校、団体への案内を収録します。

各位

このたび、幼児向け硬筆学習のテキストを発行しましたのでお知らせいたします。ぜひご利用下さい。

私ども日本書字文化協会は、書写書道の普及を目的に活動する非営利の団体です。文部科学省などの後援による全国大会のほか、文字を書く力をみる検定試験を実施し、そのための練習帳を発行しています。

このたび刊行するのは、えんぴつなど硬筆のテキスト幼児編上下の二冊です。幼稚園、保育所園児を主な対象に、持ち方、姿勢などについてもイラスト入りで詳細に書いたA4版、64ページのテキストです。体験を通じて各能力を伸ばしていく幼児の特性に合わせて、ビジュアルにて目で見ること重点を置き、親しみやすい言葉を選びました。文字への興味・関心を高める幼児期の文字の学びとして美しい字形に触れることが文字に対する感性を磨く上で大変重要と考えています。幼児向けの硬筆本格的教材として、自信を持ってお勧めいたします。

併せて、新硬筆検定の受験をお勧めします。検定結果の積み重ねで段級が付与され、学ぶ励みともなります。

もちろんテキストは検定を離れて、硬筆学習の友としてお使いいただけます。申込書にてご注文ください。

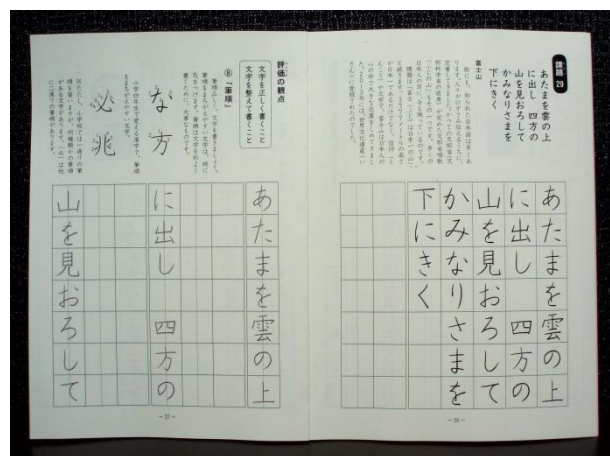
お問い合わせはお気軽に書文協本部までお寄せ下さい。

B5判 64ページ

1冊定価 648円 = 幼児シリーズ、本シリーズ共通

本体600円+消費税（8%、48円）

新・硬筆教材



幼児編と検定

検定の見直しに取り組んでいる書文協は、現在2コースに分かれている硬筆楷書、硬筆行書の2コースを一本化した書写書道硬筆課題検定（新・硬筆検定）を創設しました。硬筆は、えんぴつやペンなど筆以外の筆記具で文字を書くことを指すもので、書写書道の日常化・実用化推進に直接つながるものです。じっくりと練習効果が出る現検定は残しながら、濃縮した学びで書写書道の基本を早く身につけることができる新・硬筆検定をスタートさせるものです。

新・硬筆検定は本シリーズ（小学生標準以上120課題、テキスト15冊）と別に幼児シリーズを設けました。文字に親しみ、字形をつかみ、文字感覚を身につけるのは幼児期が最適です。幼児は計10課題で、幼児編上（4課題）、下（6課題）です。

段級が取れます

（上）10級 （下）8級

検定の実際は、すでに発表した新・硬筆検定実施要項の通りですが、検定と連動している段級の付与は、幼児検定でも同じです。検定成績により（上）では最初の10級、（下）では最高8級が付与されます。

詳細は、書文協本部（03-6304-8212）まで。

第3回全国書写書道伝統文化大会

応募期間 平成26年11月15日～27年1月17日

◎権威ある中央審査委員会が公平審査

◎規定課題、手本あり

◎用紙は低学年は半紙オーケー

◎書くポイントを明示した「評価の観点」公表

◎小、中学生は出品料据え置き

主催 一般社団法人日本書字文化協会

公益財団法人文字・活字文化推進機構

全国書写書道伝統文化大会（伝統文化大会）は、夏・秋の全国書写書道総合大会（総合大会）と並ぶ大会です。お正月にちなむものとして全国年賀はがきコンクールと学生書き初め展覧会から成る規模の大きな大会を開催するものがあります。

新しい学習指導要領で伝統文化の尊重が強く求められ、また国語科では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が置かれました。日本の伝統的な習俗に根ざし、また古典、古文に親しむ学習が求められています。新事項は、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことという国語の学びの3領域を支える基礎となるもので、書写はその大事な部分を構成しています。書写も伝統文化をより強く意識した学びとならなくてははいけません。こうした学びを後押しするコンクールとして開催するのが伝統文化大会であります。

また総合大会と同じく、一括実施することで書写書道の広がりを実感してもらい、毛筆・硬筆のバランスある書写書道の学びを推進します。また子どもらが年中コンクールに追われる状態を避けることも目的としています。

（実施要項1－18全文はホームページにあります）

教 学 半

書文協教学参与 池田圭子

教学相長（ちょう）ずる、あるいは教学相半（なかば）する、と言われます。教えることは学ぶことに通じる、という意味です。人にものを教えるとき、自分が良く分かっていないとうまく教えられません。また、教えていると、自分がどこを知らないか、理解していないか、よく分かってきます。つまり、教えることは学ぶこと、なのです。

池田圭子は教学全般で会長を補佐するほか、通信教育部門を担当、中野教室でも主に成人生徒のクラスを担当しています。通信生から文部科学大臣賞獲得者を輩出、教え方の上手さに定評があります。（編集部）

11月3日の表彰式が終わり、第三回全国書写書道総合大会も無事終了しました。そう思っているうちに冬の伝統文化大会の要項が発表されました。つい大会に追いかけてしまいそうですが、実力をつけていくには、大会と大会の検定試験の練習で、基本をしっかり身に付けていくことが重要です。

特に硬筆では、ひらがな46文字を日々の練習で繰り返し練習してポイントを習得しておけば、大会の練習では、全く新しい物への挑戦ではなく、新しく出てきた漢字、文字の配置、作品としての仕上げに時間をかけることができます。そう思っていくと、検定の練習も、大会の練習も気が楽になって、楽しくできることでしょう。

通信教育の生徒さん、または個人で検定や大会に参加されている方々には、各地で行われている講習会や、錬成会の参加をお勧めします。生徒さんの中には、通信教育と講習会や、錬成会をうまく利用して実力をつけている方々がいます。一人で練習していると、なかなか分からない筆使いや鉛筆の持ち方、姿勢など書文協では、手を取って指導していきます。これこそが上達の近道でしょう。スケジュールなどの詳細につきましては、中野本部にお問い合わせください。

第三回伝統文化大会でも、皆さんの素晴らしい作品をお待ちしています。

臨書習作展示会のお知らせ

日頃より本協会の活動に、ご理解ご協力いただきありがとうございます。
以前お伝えしてありますように、漢詩「楓橋夜泊」臨書展（応募締め切り平成27年3月末）の習作展を開催いたします。

みなさんお誘いあわせの上、どうぞお越してください。

日 時 平成26年11月27日（木）～30日（日）
10:00～16:30
※30日（日）は14:00まで

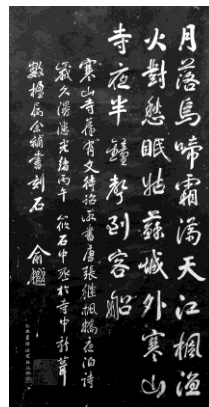
場 所 澤乃井ガーデンギャラリー
（青梅市沢井・小澤酒造 澤乃井園内）
〒198-0172

東京都青梅市沢井2-770

0428-78-8215

（JR 青梅線さわい駅より徒歩3分、清酒澤乃井醸造元・小澤酒造、澤乃井園敷地内にごございます。2階にはきき酒処、庭園では軽食やお酒を楽しめ、庭つづきにはままごと屋、豆らく、酒蔵見学に来られる皆様にご覧いただけます。）

拓本とり 11月27日（木）
13:00～
沢井にある寒山寺石碑の拓本をとります。
※雨天中止



一般社団法人 日本書字文化協会

〒164-0001

中野区中野2-13-26 3階

03-6304-8212

【青梅教室】

青梅市河辺町10-10-3-301

0428-21-6896

文 鎮

書文協指導主任 佐藤貴子

～保護者と一緒に考えたいコラム～

重すぎず、軽すぎず。文鎮（ぶんちん）は、目立たず重要な書道具です。紙と墨の世界、書写書道は、それらの道具で単にきれいな文字を目ざすだけが目的ではありません、きちんと道具を整理整頓し、姿勢、呼吸を整えて文字を書く、その所作を通じて人格形成をはかるものであります。それが、良き日常生活習慣や継続する力を生むものと信じます。生徒さんの多くはまだ幼く、若く、お母様ら保護者とともに書の道を進まれている、と言えます。このコラムが親子の会話のきっかけの一つになれば幸いです。筆者は、子どもたちに人気の書文協指導主任、佐藤貴子です。（編集部）

支度半人前、ということばがあります。支度がきちんとできていれば、物事の半分はできたようなもの、という意味です。下敷（したじ）き、すずり、筆（ふで）、紙、文鎮（ぶんちん）・・・。お道具の出し入れ、置き方がきちんとできるかどうかはとても大事なことです。

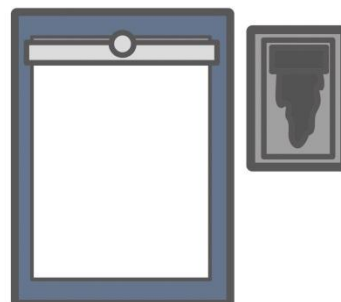
道具がそろっているか、だけでなく、正しい形に置かれているかにも注意しましょう。

さあ、いよいよ練習しよう。と思ったときに、どのように道具が用意されていますか？？

下敷き半紙など斜めになっていませんか？？

まっすぐな物は、自分に対してまっすぐに置きましょう。まっすぐに置かないと歪んだ字を覚えてしまいます。一所懸命練習するのですから、歪んだ字を覚えてしまっってはもったいないですね。

お手本のような素晴らしい字を書けるようになるために、道具の置き方にも気を配れるようにしましょう。



資料編

第3回全国書写書道伝統文化大会実施要項

1、開催趣旨

全国書写書道伝統文化大会（伝統文化大会）は、夏・秋の全国書写書道総合大会（総合大会）と並ぶ大会です。お正月にちなむものとして全国年賀はがきコンクールと学生書き初め展覧会から成る規模の大きな大会を開催するものがあります。

開催の趣旨は、新しい学習指導要領で伝統文化の尊重が強く求められ、また国語科では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が置かれました。日本の伝統的な習俗に根ざし、また古典、古文に親しむ学習が求められています。新事項は、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことという国語の学びの3領域を支える基礎となるもので、書写はその大事な部分を構成しています。書写も伝統文化をより強く意識した学びとならなくてはなりません。こうした学びを後押しするコンクールとして開催するのが伝統文化大会であります。

また総合大会と同じく、一括実施することで書写書道の広がりを実感してもらい、毛筆・硬筆のバランスある書写書道の学びを推進します。また子どもらが年中コンクールに追われる状態を避けることも目的としています。

（実施要項1－18全文は資料編にあります）

2、伝統文化大会の個別大会名

★平成26年度 全国年賀はがきコンクール

★平成26年度 学生書き初め展覧会

3、主催・後援

主 催 : 一般社団法人日本書字文化協会、公益財団法人文字・活字文化推進機構

後 援 : 文部科学省、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、全日本書写書道教育研究会

4、表彰式 平成27年3月8日 中野ゼロホール（予定）

5、大会役員

大会顧問

鈴木 勲 (公益社団法人日本弘道会会長、元文化庁長官)

野口 芳宏 (千葉県教育委員、植草学園大学教授)

大会会長

大平 恵理 (一般社団法人日本書字文化協会代表理事・会長)

大会副会長

肥田美代子 (公益財団法人文字・活字文化推進機構理事長)

運営委員長

佐藤 貴子 (一般社団法人日本書字文化協会事務局長)

6、中央審査委員会

顧問 井上 輝夫 (全日本書写書道教育研究会会長)

城所 湖舟 (横浜国立大学名誉教授)

蓮池 守一 (全国連合小学校長会顧問)

委員長 小森 茂 (青山学院大学教授、元文部科学省教

科調

査官)

副委員長 加藤 東陽 (東京学芸大学名誉教授、元文部科学

省教

科調査官)

委員

青山 浩之 (横浜国立大学准教授)、磯野 光象 (元文教大学講師)、加藤 泰弘 (東京学芸大学教授、文部科学省教科調査官)、柴田 五郎 (元東京都小学校書写研究会会長)、辻 眞智子 (聖心女子大・文教大学講師)、長野 秀章 (東京学芸大学教授、元文部科学省教科調査官)、宮澤 正明 (山梨大学教授)

7、募集期間

平成26年11月15日～平成27年1月17日

8、作品規定

部門の課題ごとに参加でき、成績が決定されます。

個別大会名	対象	部門 【課題※1】		点数	用紙（縦長使用）	署名
④ 全国年賀はがき コンクール	幼児～ 一般	規定		1点	全国年賀はがきコ ンクール 清書用紙または、 はがき	【幼児】 氏名（なまえ だけでもよ い） 【小学生～中 学生】学年・ 氏名。 学年は（例） 小四、中二と してくださ い。 【高校～一 般】 作品に応じて 署名。雅印の みは不可
		自由		5点まで		
		硬筆	規定	1点	硬筆共通清書用紙	
自由	5点まで					
毛筆	規定	1点				
	自由	5点まで	半紙～半切※2			
⑤ 学生書き初め 展覧会	幼児～ 大学	自由		5点まで		

【※1】

規定課題 個別大会の規定課題は、課題一覧表をご覧ください。（別紙参照）

自由課題 語句が違えば、5点まで出品できます。一番よい作品を選ぶのに本部審査を受けることができます。最も優れた作品1点にのみ賞が与えられますが、全国審査で同位の時は、2枚目以降の作品が評価材料となります。

☆自由課題を含め課題文中の漢字は、原則として教育漢字学年配当に準拠します。

書き初め展覧会毛筆の部の高校生以上は規定課題がありませんので、自由課題のみとします。

【※2】

書き初め毛筆規定課題（第3回から教科書の中から指定）の毛筆用紙は、幼児～小2までは半紙、小3～中3は八つ切り、高校・大学は半切。自由課題の用紙の大きさは半紙から半切まで自由。いずれも、ともに縦長縦書きに限ります。

9、参考手本（硬筆・毛筆）・全国年賀はがきコンクール清書用紙・

硬筆共通清書用紙について

硬筆作品では、審査の公平を期するため紙の質、大きさなどが均質の「硬筆共通清書用紙」を使用します。別紙参考手本・硬筆共通清書用紙申込書で、参加予定人数分の参考手本と硬筆共通清書用紙を大会事務局にお申し込みください。

保育園・幼稚園・学校からの参加の場合は、応募予定者1人につき、参考手本1枚、規定用紙2枚を無料（梱包代・送料はご負担ください）でお渡しします。それ以上のお求めは、1枚10円となります。

費用は事前に振込を済ませ、申込書には振込取扱票を添付してください。

10、大会参加申込書

新しく設けた別紙大会参加申込書は、参加者一人一人の入賞証明書や受賞履歴書発行の管理システムを充実させ、大会参加がより有効なものになるようにと考えております。これは、保護者の方にも大会の開催趣旨をお伝えするため、さらに、申込書を大会事務局に提出いただくことにより、確実な成績管理を図ることを目的に作成したものです。

なお、個人情報につきましては、書文協プライバシーポリシー（書文協ホームページに掲載）に基づき万全を期して取り扱ってまいります。主旨をご理解の上、ご活用くださいますようお願い申し上げます。

11、団体出品

まずは、大会事務局にお問い合わせください。団体パスワード等をお伝えいたしますので、ホームページの大会団体専用ページより、「団体出品の手引き」など、出品に関する詳細の書類をご覧ください。送付がご希望であれば書類をお送りいたします。団体としてまとまって（5点以上で）応募される場合、団体応募として出品料の割引が受けられます（手引きをご参照ください）。

また、今回から大会参加申込書をお出しいただいた場合、出品の際の出品目録が不要になります。さらに、大会参加申込書を事前に、早目にお送りいただければ、出品券が発行され（出品券の発行にはおよそ2週間かかります）、作品の応募者記入欄に貼付することで、出品の際の事務を大幅に簡略化できます。

但し、大会参加申込書のお届けがなくても、従来通りの出品方法（出品の際、出品目録をお出しいただく）もできますので、どちらかご都合のよい方法でご出品ください。

12、個人出品

個人応募の場合は、大会参加申込書または、個人セット申込書に個人出品と明記し、切手300円分を同封して事務局に申し込んでください。手本、規定用紙も含めた個人セットが送られます。

13、**団体**出品料（消費税8%込み）

硬筆の中学以下は**420円据え置き**

個別大会名	部門	団体出品料・参加料		個人出品料
④ 全国年賀はがきコンクール	規定の部	幼・小・中	380円	1,296円 (学年に関わらず)
	自由の部	高・大・一般	648円	
⑤ 学生書き初め展覧会	硬筆の部	幼・小・中	518円	
		高・大	648円	
	毛筆の部	幼・小・中	648円	
		高・大	907円	

※団体でも4点以下の出品の場合は、個人出品料となります。

14、作品の提出

「団体応募の手引き」中の「応募用紙」「出品目録」などに必要事項を記入して、作品と一緒に下記の大会事務局に送付してください。大会参加申込書をまとめて提出いただいた場合は、出品目録は不要（前項で説明）です。出品料は事前に振込を済ませ、応募用紙に払込取扱票を添付してください。

事前に大会参加申込書を提出し、手元に出品券をお持ちの場合は、出品部門明細表を必ず添えて提出してください。

15、結果発表 平成27年1月末

16、賞 全ての出品者に賞を授与し、大会参加の意欲を称えます。

☆伝統文化大会の賞 = 毛筆・硬筆両部門総合的に優秀な成績の参加者に贈る。

(グランプリ) 文部科学大臣賞 伝統文化大賞

☆個別大会の共通の賞として

<特別賞> 文部科学大臣賞 大賞 中央審査委員会賞 主催者賞
後援者（予定）を置き、それぞれ副賞を贈る。

<教育特別奨励賞> 地域の実情などを考慮して、顕著な成績を認める。もので、副賞を贈る。

<本賞> 優秀特選 特選 金賞 銀賞 銅賞。優秀特選、特選には副賞を贈る。

17、賞状印字

全ての参加者に賞状が出ます。出品者の氏名は事務局でコンピュータ印字することが可能です。希望の団体は応募時に1人30円分の印字代を添えてお申し込みください。

氏名は、大会参加申込書、または出品目録と同一になるため、正確に記入してください。書体はご希望に添えない場合もありますが、あらかじめご承知おきください。

18、振込み先

00130-1-728113 一般社団法人日本書字文化協会